

促成ギクの育苗に関する試験

発根苗, さし穂の冷蔵と冬至芽の発生およびその影響について

西村和明・豆塚茂実

(大分県温泉熱利用農業研究所)

NISHIMURA, K. and MAMEZUKA, S.

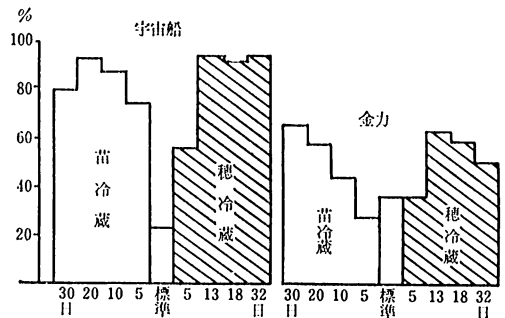
Studies on the Raising seedling for Forcing Chrysanthemum
Effect of Coldstorage on the Rooted cuttings and Cuttings for the
Sucker formation, and their development

夏ギクの促成栽培には冬至芽を利用するが、冬至芽を得るためには8~9月にさし芽している。しかし高温乾燥期でありさし芽の腐敗が多い。また、この時期は出芽したものがすぐ花芽が着き、よいさし芽が採れないことがある。したがって早い時期に採穂し冷蔵貯蔵後9月にさし芽し、冬至芽の発生やその影響について検討したのでその概要を報告する。

新栄, 金力, 宇宙船, 岩の友を供試し, さし穂の冷蔵は32, 18, 13, 5日間, 発根苗の冷蔵は30, 20, 10, 5日間とした。冷蔵温度は0~2℃でやや萎びたものを50本ずつポリ袋につめて冷蔵した。さし穂冷蔵区は冷蔵終了後さし芽して発根させ, また発根苗区は冷蔵終了後それぞれほ場に植込み冬至芽の発生を促した。結果の概要は次のとおりである。

1) 出庫時の保存状態は品種による差が著しく, 新栄は32日間の穂冷蔵では生長点や若い葉の黒変が多発したが, 宇宙船や金力はほとんど認められず, また20日以下の冷蔵では全く被害はなかった。穂冷蔵のさし芽後における発根率については冷蔵の影響は認められなかった。発根苗の冷蔵では30日間の新栄, 宇宙船で10%被害を認めた以外は健全であった。

2) 冬至芽の発生状況は各品種とも20日以上冷蔵で



第1図 冷蔵日数と2等級以上の冬至芽の割合

1, 2等級にランクされるものが多くなり, 宇宙船のごときは5日間の冷蔵でも標準区の倍以上の数となった。しかし, 冷蔵期間が短いと格外にランクされるものが多くなる傾向が認められた。

3) 収穫物に対する影響では開花期は品種により異なり, 新栄は発根苗の冷蔵では長い冷蔵ほど早くなり, 穂の冷蔵では逆の結果となった。他の品種は概ね発根苗冷蔵が早い傾向を示した。茎長は冷蔵区が標準区よりよく伸び短い冷蔵でもよい成績を示した。切花重は標準区が重い株当たりの収穫本数が異なるので比較できない。

第1表 冷蔵期間と収穫物に対する影響(金力)

処 理	項 目	冷 期 日	蔵 間 日	満開日	莖 長	切花重	切花重 莖長	葉 数	花 径	花 首長	株 当り 量
発 根 苗		30		5. 1	75.0	53.9	0.71	35.1	11.8	3.3	2.8
		20		5. 2	78.5	55.4	0.70	36.7	11.4	3.2	3.1
		10		5. 3	76.7	64.0	0.83	36.8	12.0	3.3	2.9
		5		5. 3	71.9	49.5	0.68	35.8	9.4	4.0	1.7
	標 準	0		5. 3	70.8	58.1	0.82	35.2	11.6	2.9	1.8
さ し 穂		32		5. 3	79.9	52.3	0.65	35.5	11.5	3.1	3.0
		18		5. 6	76.5	48.1	0.62	35.3	11.4	3.4	2.6
		13		5. 3	81.8	54.3	0.66	36.8	11.6	3.8	3.1
		5		5. 3	77.8	68.6	0.88	38.1	12.2	2.5	2.9

上物率は新栄では標準区との差は認められなかったが、他の品種は多くなった。また、発根苗、穂冷蔵の差は明らかでなかった。

以上の結果発根苗およびさし穂を冷蔵処理することにより冬至芽の発生数や1, 2等級苗の占める割合が向上することが認められた。冷蔵処理による発根苗とさし穂との差異は明らかでないが、冷蔵処理日数は10日間以上

30日間程度が有効であり、品種により処理日数を加減する必要がある。また収穫物に対する影響は品種により開花期の促進や茎長、切花数、上物率の増加などすぐれた結果を示した。したがって実用的には冷蔵する場合の袋詰作業に好都合なさし穂の冷蔵処理を行なうことが適当と認められた。